



# 都市医師会 だより

## 小樽市医師会主催「シッコ」上映会

小樽市医師会  
広報部担当理事 高村 一郎

小樽市医師会では4月19日土曜日朝10時半から夕方まで三回にわたって、アメリカ映画「シッコ」を上映しました。当初映画は一回きりの上映を予定しましたが、多くの医療機関から追加の請求があり、また直接小樽市医師会の事務局に「シッコ」を観たいと訪れる市民が500人を上回るなど混雑が予想されたため急遽上映を三回に拡大して実施しました。結果として10代から80代まで老若男女1,150人の市民を集めました。中には続けて二回ご覧になった猛者もいらっしゃいます。

今回の上映は日本全体がこれまでにない医療危機のさなかに開催され、非常に時宜を得た企画となりました。また当会の呼びかけに応え、小樽市内で新聞各社およびインターネット上の新聞である小樽ジャーナルなど各社が大きく事前に取り上げ、詳しく報道されたことも大きな成功要因でした。

映画はすでに広く日本各地で上映されており、医療崩壊の進む日本と重なる部分が多く各地で市民の共感を集めています。映画ではアメリカの医療体制の不備が大変鋭く批判されていますが、アメリカは世界最先端の医療を提供できる国ではあっても市民に平等に医療が行き渡らないいびつな姿をしています。白血病に対する骨髄移植など高度な医療が可能な先進国で、かつて映画「レインメーカー」でも描写されたように、制限のある保険故に治療を断られる人間の心情は察するにあまりあります。まして無保険で暮らしている4,000万人のアメリカ人はさぞかし不安な毎日をお過ごしではないかと思えます。今回上映した映画「シッコ」では医療における格差が鋭く指摘されていますし、その格差の存在こそがアメリカ社会の抱える問題点です。

小樽市医師会では上映に先立って今回の映画と日本の医療体制に関するパンフを配布するとともに、広報担当の高村が講演して「映画はアメリカを描写



しているが、今の政府もこのような自己責任が求められる医療体制を目指しており、アメリカで起こっていることは日本でも現実になりつつある」として警鐘を鳴らしました。

日本の医療危機がどれほど深刻か、それを評価する明確な物差しはありませんが、これまでマスコミが全く取り上げなかった医師不足、医師の過酷な労働実態などさまざまな問題点を真剣に捉えた記事が数多く見られるようになったことはその危機の深さを現しているでしょう。そして小樽市民にとっても医療の現状が大変深刻に受け止められていると感じられました。

入場時にパンフと一緒にアンケートをお配りしたのですが、402件と入場した市民の多くにご回答頂けただけでなく、その大半、143件に自発的な書き込みがあり、大きな反響が感じられました。

アンケートへの回答では「アメリカ医療には不安なところが多く納得できる制度ではない」とする回答が96%と圧倒的で、「この程度の格差はやむを得ない」とする回答はわずか4%でした。また映画の中でアメリカと対比されて描写されたヨーロッパの医療、福祉体制についてはフランスとイギリスという限られた範囲ではありますが、「ヨーロッパは制度が行き届いている」とする声が86%で多数を占めました。さらに日本の医療の将来に関しては「医療崩壊が現実となっている」44%、「日本の将来もこうなるのか心配だ」43%で市民の多くが現状に強い不安を感じていることが分かりました。

さて、書き込みの中には「米国はなんでも良いかと思いましたが医療制度はダメですね、米国ではうっかり病院には行けませんね」「アメリカのまねだけはしてほしくない」「アメリカの医療、社会制度は最悪」などアメリカの医療に対する反発が強く表れており、アメリカ医療を良しとするご意見は皆無でした。

また「日本の医療は米国と比べるとましなようですが、いつかこうなるのでは？と不安を感じます」「日本も格差の医療制度を今も感じます。これ以上悪くならないでほしいです」など日本の医療制度に対する不安が数多くみられました。

さらに従来から医師会はマスコミから敵役と見な

されているばかりでなく市民からも必ずしも好感を持たれているとは言いがたい面がありましたが、アンケートの書き込みの中にも「医師会というと何か良くないイメージがあった」「医師会がこの映画を上映すると聞いて正直驚いた。医師会はお金を政治に悪用している団体と思っていた」など医師会を批判的に見ている意見が見られました。

しかし、この上映会を通じて「このような行動を起こされたことに心から敬意を表します。これからいろいろと市民に働きかけてくださいますようお願いいたします」「医療や福祉が良い方向に向かうよう医師会が奮闘されることを期待しています」など今後の医師会活動に期待を寄せてくださる声も数多くあり、従来からのイメージとは異なる医師会像を市民にお示しできたかと自負しています。

今後とも小樽市医師会では市民に対する啓蒙活動を幅広く進め、市民から信頼される医師会と感じていただけるよう努力していく決意です。

なお、この上映に当たっては昨年11月1日に日本医師会最高優功賞を受賞した小樽市医師会の活動「市民健康教室」に対する副賞を費用の一部に充て、市民とともにこの栄誉を分かち記念といたしました。

※小樽市医師会は小樽のローカルFM局「FMおたる」で毎週「健康おたる」と題して番組を提供しています。この中で「シッコ」についても数回にわたって取り上げています。これらの内容は当医師会のHP(<http://www.hokkaido.med.or.jp/otaru/>)でお聴きいただけます。ぜひ、アクセスをお願いいたします。

## 北海道医報へのご投稿等について

◇広報委員会◇

北海道医師会では、会員の皆さまから「学術投稿」「会員のひろば」等各種原稿を下記要領にて募集しております。是非ともご投稿いただきたくお願い申し上げます。

なお、写真作品のご投稿につきましては、ホームページに「フォトギャラリー」を設けておりますので、ご応募ください。

### 投稿要領

1. 原稿の締切  
毎月10日までにいただいたものは原則として翌月号に掲載となります。ただし、「会員のひろば」については、受付状況により掲載号を決定します。  
できるだけメール等の電子メディアでお寄せください。
2. 原稿の体裁と字数制限
  - (1) 原則として横書きといたします。
  - (2) 引用文以外は、すべて当用漢字、現代かなづかいを使用してください。
  - (3) 誤字、脱字、明らかな間違い等は広報委員会において訂正いたします。
  - (4) 1回の掲載紙面は、原則として2頁を限度とします。  
医報1頁は約2,200文字です。ただし、タイトル、写真、図表等を含んでおりませんのでご考慮ください。
  - (5) 長文原稿および連載物は、広報委員会にて採否決定の上で分割掲載、掲載号等を決めさせていただきます。
3. 原稿の訂正、返却  
次の場合は、広報委員会の決定に基づき、執筆者に対し訂正を求めるか、または返却いたします。
  - (1) 特定の個人・団体を誹謗、中傷する内容
  - (2) 匿名の投稿
  - (3) 本誌以外に既掲載のもの、あるいは投稿中のもの（二重投稿）  
ただし、特に必要と認められる場合はこの限りではない
  - (4) その他掲載に支障がある内容
4. ホームページへの掲載  
特にお申し出のないかぎりホームページに掲載されますので、予めご了承ください。

連絡先：北海道医師会事業第一課  
TEL 011-231-7661 FAX 011-252-3233  
E-mail：ihou@m.doui.jp